

令和5年度 奈良県立奈良北高等学校 学校評価総括表(年度末報告)	
【高等学校用】	
年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	科学技術の振興や社会の発展に貢献する人材の育成、グローバル人材の育成
年度重点目標	スクール・ミッションを達成するための行動を活性化す

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校は、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばす個に応じた教育を大切にしつつ、様々な課題に直面する変化の大きい社会の中で、豊かな社会の形成者として、心豊かな資質を伸ばし、科学技術の振興や社会の発展、国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。その実現のため柔軟な判断力と枠にとらわれない発想力で学びを深め、高い志をもち本校でその実現に向けて努力する生徒を求めます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 自らを大切にするとともに他者への思いやりの心をもち、国際社会や地域社会の発展に貢献しようとする生徒 3 基礎的な学力がついており、目標を掲げて学習に取り組む生徒 4 自ら考え行動できる生徒 5 探究的な学習に意欲的に取り組み、自ら課題を発見しようとする好奇心旺盛な生徒 6 数学や理科・科学技術に関心と興味をもち、将来科学技術の振興に貢献したい生徒(数理情報科)
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	本校では、豊かな人間性・自ら学ぶ意欲と態度・自律した生活態度・進路実現のための高い志の育成と、変化する社会に対応しうる能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。 1 社会の変化に対応できる人材を育成するため、既存の科目にとらわれない学校設定科目を開設し、課題を発見し、その解決に向け粘り強く取り組む態度を育成します。 2 探究的な学びを重視し、「論理的な思考力」「総合的な判断力・表現力」「新しい価値を創造する力」を育みます。 3 STEAM教育の視点に立った教科横断的な学習を意識し、未来指向の教育活動を展開します。 4 規律ある学校生活を通して、自律する力や規範意識を高め、未来の社会を担うための高い倫理観を育みます。 5 コミュニケーション力やリーダーシップ、健やかな心と体を育成し、他者と協働する力を醸成します。 6 国際教育に積極的に取り組み、世界を視野に入れたグローバル人材育成を意識した教育プログラムを提供します。 7 学校行事や課外活動、高大連携講座、ボランティア活動などを通して、視野を広げ、主体性と協働する意識を高め、社会に貢献する精神を涵養します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	1 自然や人間を大切にするとともに豊かな人間性を培い、自他の価値を認め合い、他者と協働しながら自分を成長させることができる。 2 国際化・情報化の進む社会の中で、広い視野をもち、既存の価値観にとらわれず、自らの考えを論理的に表現し、行動することができる。 3 個性を生かし、学びをよりよい社会の創造につなげ、社会の一員として貢献することができる。 4 健やかな心と自主自律の精神をはぐくみ、何事にも粘り強く取り組むことができる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基礎体力についての意識の向上	運動習慣の定着及び、体力は必要だと思う生徒の割合90%以上の維持 体力テストの結果の活用推進	体力は必要だと思う生徒の割合90%以上	「大変そうだと思う」「そうだと思う」と答えた割合が99%であった。	生徒自身が状況に応じた種目選択やルールの設定等を主体的に考え、競技を実施する場面を増やすことができた。	数値目標はおおむね達成できている。個々の生徒の状況に対応した指導をしてもらいたい。	生徒が自分自身はもちろん仲間間の体力に応じた運動を選択するような取組を展開し、生涯を通じて運動を継続できる習慣を身に付けさせる。
	危機管理に対する意識の向上	危機管理について、自らを守るための意識や理解ができていてと回答する生徒の割合の増加(R3年度67%)	危機管理について、自らを守るための意識や理解ができていてと回答する生徒の割合80%以上	危機管理について、87%が自らを守るための意識や理解ができていてと回答している。	ホームルームや集会等で機会を設け、危機管理や安全についての指導を行った。数値としての成果は出ていないが、継続した意識付けが必要である。	「自らを守るための意識や理解ができていない」と回答する13%の生徒個々の状況に目を向けることが必要である。	危機管理意識を高め、自分自身で行動を変化させていけるよう、生徒の行動を見逃さずに声を続けていく。
	望ましい生活習慣の確立	学校の指導は基本的な生活習慣を身につけるように行われていると回答する生徒の割合80%以上の維持	学校の指導は基本的な生活習慣を身につけるように行われていると回答する生徒の割合80%以上	89%が学校の指導は基本的な生活習慣を身につけるように行われていると回答している。	数値としては目標を達成しているが、遅刻の増加等、生活習慣の改善が必要な生徒に対する指導が課題である。	数値目標はおおむね達成できている。今後も個々の生徒の状況に対応してもらいたい。	生徒の変化を見逃さず、丁寧に声かけを行う体制を再点検し、学校生活の充実及び生活習慣の改善を進める。家庭と連携して取組を進めていく。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	わからないことを自分で調べたり、諦めずに考えたりしようとしていると回答する生徒の割合50%以上を目指す	わからないことを自分で調べたり、諦めずに考えたり「いつも」しようとしていると回答する生徒の割合40%以上	「わからないことを自分で調べたり、諦めずに考えようとしている」という間に「いつもしていた」に41%、「だいたいしていた」に46%が回答している。	数値としては目標に近づいている。41%のうち毎回しっかりできたという生徒は15%程度に過ぎず、まだまだ向上の余地はあると思われる。	授業改善について、数値目標とは別に具体的な目標を設定するとよい。	探究的な活動で得ることができる達成感の積み重ねにより次の探究に向かう力が醸成される。各科目で実施している探究的な活動が質、量ともに向上するよう、教員間の情報交換、研修を充実する。
	知識を活用して解決する力の向上	ジェネリクススキルテストにおけるリテラシー(知識を活用して問題を解決する力)Level4以上の割合について入学時から3年時の増加率13%以上を目指す	ジェネリクススキルテストにおけるリテラシーLevel4以上の割合の入学時から3年時の増加率13%以上を目指す	令和5年度の第3学年の全国の状況は入学時から3年時の増加率が11.9%であるが、本校は増加率が10.4%であり、下回っている。	授業や課題を通して、知識を増やすとともに、SSHの取組のもと探究的な活動を充実させ、知識を活用する機会を教員が意識して設ける必要がある。	授業や探究活動の指導について、具体的にどのよう改善していくのか検討した方がよい。	生徒に「考える」機会を提供していくために、教育をとりまく環境の変化や生徒の変化にアンテナをはりながら、職員研修などによる教員の不断の学びが必要である。
	オンライン教育の推進	教育活動全般に対してICTの活用を推進 ICT活用に関する教員研修の充実	ICT活用に関する教員研修を充実させる	ほぼ全ての教員が電子黒板やロイノートなどの使い方に慣れ、配布物も効率的に行えるようになってきている。	本校教員が講師となり自らのICT活用方法の紹介や、日常的な情報交換の実施により、推進することができている。	次のステップとして教員の目標だけではなく、生徒の目標を立ててもらいたい。	授業におけるICTの活用は「使ってみる」段階から「効果的に使う」という段階に進む必要がある。教員間の情報交換をさらなる活性化が必要である。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実	アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップの実施率25%以上を目指す	アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップの実施率20%以上	入学後1回以上アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップに参加した第3学年生徒の割合は29%である。	インターンシップへの参加も含め、外部の様々な機会への参加を呼びかけた。	インターンシップの機会を今後も情報提供するとともに、学びの質を高めることが必要である。	従来のインターンシップに加えて、今後も様々な情報提供を行い、大学や専門学校、研究機関等でのアカデミック・インターンシップ参加を促す。
	キャリア教育の推進	進路について具体的に学んだり、深く考えたりする機会があると回答する生徒の割合80%以上を目指す キャリア意識醸成のための特別講座を開催する	進路について具体的に学んだり、深く考えたりする機会があると回答する生徒の割合80%以上 特別講座を年間8講座以上開催	93%が進路について具体的に学んだり、深く考えたりする機会があると答えている。また、特別講座を夏に14講座、冬に4講座、春に1講座実施。	7月には進学相談会を、9、10月に国公立大学説明会を実施。9月に1年、11月に2年対象の進路講演会を実施。特別講座を多数実施し、講師のキャリアパスについても話してもらった。	生徒が自らの卒業後のイメージをもちやすくなるよう、卒業生の講演などがあればよい。	作成2年目となるキャリアパスポート冊子を活用しながら、進路に関する情報収集の方法、キャリアデザイン設計についての情報提供をさらに充実させる。
	対人関係能力の向上	ジェネリクススキルテストにおけるコンピテンシー(人と自分によりよい状態をもたらそうとする力)Level3以上の割合について入学時から3年時の増加を目指す	ジェネリクススキルテストにおけるコンピテンシーLevel3以上の割合の変化について教職員の共通理解を図るための研修を実施する	令和5年度の全国の状況は入学時から3年時の増加率1.5%に対し、本校は増加率7%であった。	学校行事や特別活動が本格的に動き出したことが影響していると考えられる。探究活動や部活動を通して、ジェネリクススキル向上に努めた。	学校行事や特別活動について、具体的にどのよう改善していくのか今後も検討を続けてもらいたい。	単純に「コロナ前」に戻すのではなく、それぞれの活動の意義を考えた上でこれからの活動の在り方を検討し、目的意識をもって取り組ませることが大切である。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会の年度3回の開催	学校運営協議会及びSSH運営指導委員会を効果的に開催する	学校運営協議会は、6月、10月、2月の3回開催。SSH運営指導委員会は8月、12月の2回開催。	当初の目標通りに開催することができた。第2回は授業参観を実施した。	今後も適切な内容で開催してもらいたい。	学校運営協議会の開催がより効果的になるように、開かれた学校づくりの推進とともに協議会の内容を学校運営に今後も生かしていく。
	ボランティア活動への参加促進	地域ボランティアへの参加者数のべ200名以上の維持	地域ボランティアへの参加者数のべ200名以上	富雄川清掃ボランティア200名、通学路清掃100名等、のべ400人程度の参加者を数えた。	開催日の天候に恵まれたこともあり、多くの生徒が主体的に参加した他、新しい取組にも広がっている。	運営協議会で内容は毎に分けて紹介されたが、ツールでは目標を超えている。今後も取組を継続してもらいたい。	地域連携や異校種交流につながる様々な活動に、より多くの生徒が参加できるように機会を設定する。
	自らの在り方について学ぶ機会の充実	生き方や在り方について学んだり、考える機会があると回答する生徒の割合85%以上を目指す	生き方や在り方について学んだり、考える機会があると回答する生徒の割合80%以上 学校行事を活性化す	生徒アンケートで91%が生き方や在り方について学んだり、考える機会があると回答している。	命の大切さを考える講演会や集会等で、自己の在り方について考える機会となるような内容を展開することができた。	目標は達成されている。いこまSDGsアクションネットワークとの連携など、生徒が活躍するフィールドを大切にしていきたい。	今後も集会や講演会で自分自身を見つめ直す機会を設定したい。学校行事は生徒がより主体的に取り組む、自己肯定感を高められるようにサポートしていく。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	一人ひとりを大切にす人権教育・特別支援教育の推進	人権について学んだり、考えたりする機会が適切に設けられていると回答する生徒の割合90%以上の維持 個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用方法の見直しを実施	人権について学んだり、考えたりする機会が適切に設けられていると回答する生徒の割合90%以上 個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用方法の見直しを実施	生徒アンケートで96%が人権について学んだり、考えたりする機会が適切に設けられていると回答している。入学以前に個別的教育支援計画及び個別の指導計画のある生徒について、状況を確認し、支援の方法を探った。	人権教育ホームルームや人権教育講演会の実施、啓発資料や人権作文集の発行など、計画的に実施することができた。個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用については、さらに活用を進めたい。	個別的教育支援計画及び個別の指導計画について、まだまだ活用改善の余地があるとの自己評価になっているので、来年度の積極的な活用を期待する。	生徒の人権意識をさらに高めるため、人権教育の日常化に取り組む。個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用を、全校体制で行っていく。
	いじめの絶無を目指す学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	いじめや暴力をなくす指導が適切に行われていると回答する生徒の割合90%以上を目指す	いじめや暴力をなくす指導が適切に行われていると回答する生徒の割合85%以上	生徒アンケートで89%がいじめや暴力をなくす指導が適切に行われていると回答している。	各学期に「いじめに関するアンケート」を実施し、個人面談等で生徒の状況把握を行った。道徳教育を進めた。	数値は上昇し、目標値に近づいている。アンケートを今後も有効活用してもらいたい。	今後も個人面談やアンケートを活用し、学校全体がいじめや暴力がない環境づくりに取り組む。
	教育相談の充実	「悩みを相談しやすい場所がある」「先生に相談しやすい雰囲気がある」と回答する生徒の割合80%以上を目指す 教員がゆとりをもって生徒と向き合えるよう、働き方改革を推進	「悩みを相談しやすい場所がある」「先生に相談しやすい雰囲気がある」と回答する生徒の割合75%以上 閉校時間の見直し及び超過勤務の減少	生徒アンケートで「悩みを相談しやすい場所がある」「先生に相談しやすい雰囲気がある」と回答する生徒の割合はそれぞれ77%、78%である。	アンケート結果を受けての個人面談や、カウンセリング希望の把握等を通じて、教員が状況把握を行い、必要に応じて支援につながることであった。働き方改革については、閉校時間の見直しを実施した。	教員が生き生きと仕事をしていることが大切であり、その状態が保たれてはじめて頼れる存在となり得る。教員が超過勤務にならないように考えながら、働き方改革の取組を進めてもらいたい。	相談しやすい雰囲気高めるため、相談機会・場所を確保すると共に、研修や啓発を通じて職員意識向上をはかる必要がある。働き方改革について、閉校時間の見直しは教職員の運動時間に一定の成果があった。来年度は月1回全職員及び生徒が早く下校する日を設定する予定。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

・学校教育目標の実現に向けた、令和5年度末の目標値等についてはおおむね前年度よりも数値が上昇し、達成できている。本年度よりスーパーサイエンスハイスクールに指定され、探究的な学びの充実に向けたSS探究基礎、SS探究、LAS探究及び希望者に対する科学特論や特別講座の実施など、さまざまな取組や機会を1、2年生の全生徒に対して数多く設定することができた。荒削りながら大きな第1歩となった取組を今後修正しながらより取組を精進していく。

・教員の指導力等の向上に関わる研修を各分掌が実施するとともに、具体的な行動目標を設定することが課題である。

・本校に入学してよかったと回答する生徒の割合88%、本校に入学させてよかったと回答する保護者の割合94%となり、生徒の回答に大きな変化はなかったが保護者の肯定的な回答は大きく上昇している。